

検討対象校の学校適正配置シミュレーション

本基本方針の考え方に基づき、検討対象校の施設の状況や学校等の特徴、学区外就学者数の状況、さらに適正配置後の学校規模や通学距離など、あらゆる面から検討した結果、検討対象校の望ましい学校の配置を下記のとおり提示します。

(1) 永治小学校〔学校規模：平成28年度／小規模校（過小）〕

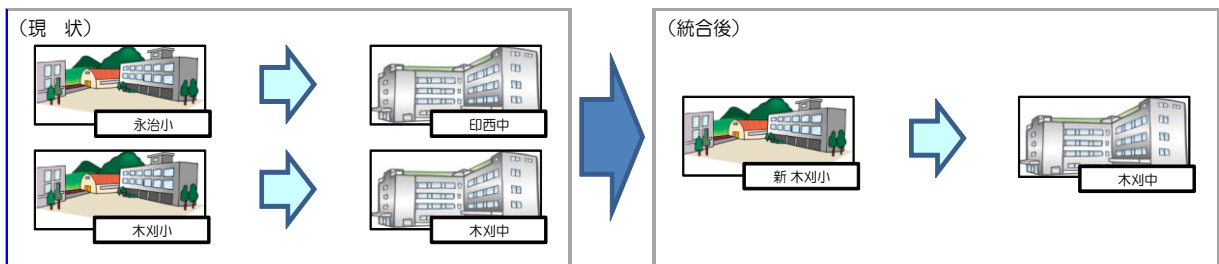
学区内における児童数の推移はほぼ横ばい傾向にあるものの、実際の入学者数は近接する木刈小学校への学区外就学者数の増加により、さらなる減少が見込まれます。また、現在、複式学級や欠学年を有しており、このまま児童数の減少が続くと、新たな欠学年の発生や複式学級の編制が余儀なくされることから、隣接校との統合により、学校規模及び配置の適正化を図る必要があります。

学校適正配置シミュレーションでは、木刈小学校並びに大森小学校との組み合わせを比較検討しましたが、統合後の学校規模や通学距離、施設受入面、学区外就学者数の状況等を勘案し、下記の検討結果に至りました。

【検討結果】

木刈小学校との統合を進めます。

【イメージ図】



【統合後の学区】

